

当院における CPAP 療法導入の取組

◎前田 奈津江¹⁾、糸川 沙耶¹⁾、小切間 美月¹⁾、中村 早希¹⁾、天野 友紀¹⁾、高村 絵美¹⁾、西村 はるか¹⁾、宇城 研悟¹⁾
松阪市民病院¹⁾

【はじめに】2002 年 2 月より当院呼吸器センターでは睡眠時無呼吸症候群の治療の実施にあたり、検査室で PSG 検査及び CPAP タイトレーションを行っている。呼吸器センターが本格稼働し始めた 2012 年から 2021 年までに年間平均約 115 件の検査が実施された。

【目的】2019 年 12 月より検査室において CPAP タイトレーションに使用するマスク等の機材管理を行うこととなった。また CPAP 療法導入時の説明を院内で臨床検査技師が実施し、呼吸器センターや医事課と連携して診察日より CPAP 療法が導入可能なシステムの運用を開始した。その現状について報告する。

【方法】CPAP 療法の院内導入は、医師の診察終了後医事課スタッフより導入に関する事務的な説明を行い、説明終了後検査室へ連絡。検査技師が患者を検査室へ案内し、CPAP 療法および機器の取扱説明などを行う流れとした。そのため患者は当日機器を持ち帰り、診察日から CPAP 療法を開始することが可能となった。その後の経過観察におけるデータ管理は臨床工学技士が行っている。

【結果と考察】CPAP 療法導入は 2019 年まで医師の診察後、翌日以降に業者と患者が直接やりとりし導入の日程を決め、業者が患者宅へ訪問していた。このため実際の CPAP 療法開始までに時間を要することが多々あったが、院内で検査技師が説明することにより診察当日から CPAP 療法を開始することができた。また、マスクなどの管理を自分達で行うことにより、使用機材への理解が深まり検査時や導入後の問い合わせに対し、スムーズに回答できるようになった。更に PSG 検査から CPAP 療法導入まで一貫して関わることにより、患者と信頼関係を構築する機会をより多く得られた。

【まとめ】当院における臨床検査技師による CPAP 療法の院内導入は、新型コロナウイルスの流行により一時中止となっており、現在は機材管理のみを行っている。再開の目処は立っていない状況であるが、今後も呼吸器センターや医事課と連携し、スムーズな運用ができるよう心掛けていきたい。

松阪市民病院生理検査室 0598-23-1515(内線 250)